

今年、 ビーンズふくしまは 20周年

1999年9月9日フリースクール
ビーンズふくしまが福島に誕生し、今
年20歳を迎えます。

20年前、ビーンズふくしまは、「地
域に子どもたちの学びの場をつくり
たい」という若者の熱い想いと、「不
登校の子どもたちに仲間と出会う場
が欲しい」という親の願いと、「子ども
たちの居場所を支援したい」という市
民の皆様の想いがひとつになって誕
生しました。

スタートしたばかりのビーンズふく
しまに集まった多くの子どもたちの
パワーがすごかったことを懐かしく
思い出します。子どもたちは本来「力」
を持ってて、そんな子どもたち
から実感を持って学びました。

NPO法人格を取得してから、行政
の委託を受ける機会に繋がり、若者
支援の取り組みも広がっていきまし
た。その後、千年に一度という東日本
大震災に遭遇、それに続く原発事故
という前代未聞な状況の中、手探り

しながらの被災支援への取り組み。
そんな中で、行政と共に話し合いな
がら、貧困の子ども支援や就労させ
ることのみを目的としない、多様性を
包摂した若者支援の事業を創ってい
く等、その取り組みを広げてきました。

子どもたち若者たちが、本来の力
を出していくことができるよう、自ら
望む姿で社会に繋がっていくことが
できるよう、そんな社会を創ることを
めざして歩んできました。

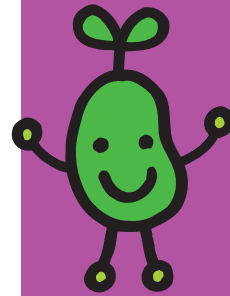
20年の歩みを振り返ると、日々の
取り組みはもちろん、変化の節目の
時期でも、皆様との繋がりや支えが
私たちの力となり、また前に進もうと
する子どもたち・若者たちの姿に勇
気づけられました。

そして、その子どもたち・若者たち
と共に在ったスタッフと共に力を合
わせることで、最初は思いもしなかつ
た遙かな道を歩み進んで来ることが
できました。

あらためてビーンズふくしまに繋
がっていただいた皆様、ありがとうござ
いました。

ビーンズふくしまでは、その感謝の
想いをこめて、20周年記念イベン
トを開催したいと思っております。

ビーンズ 通信 vol.91



●発行日/2019年1月10日

●発行元

特定非営利活動法人

ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F

TEL&FAX 024-563-6255

URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

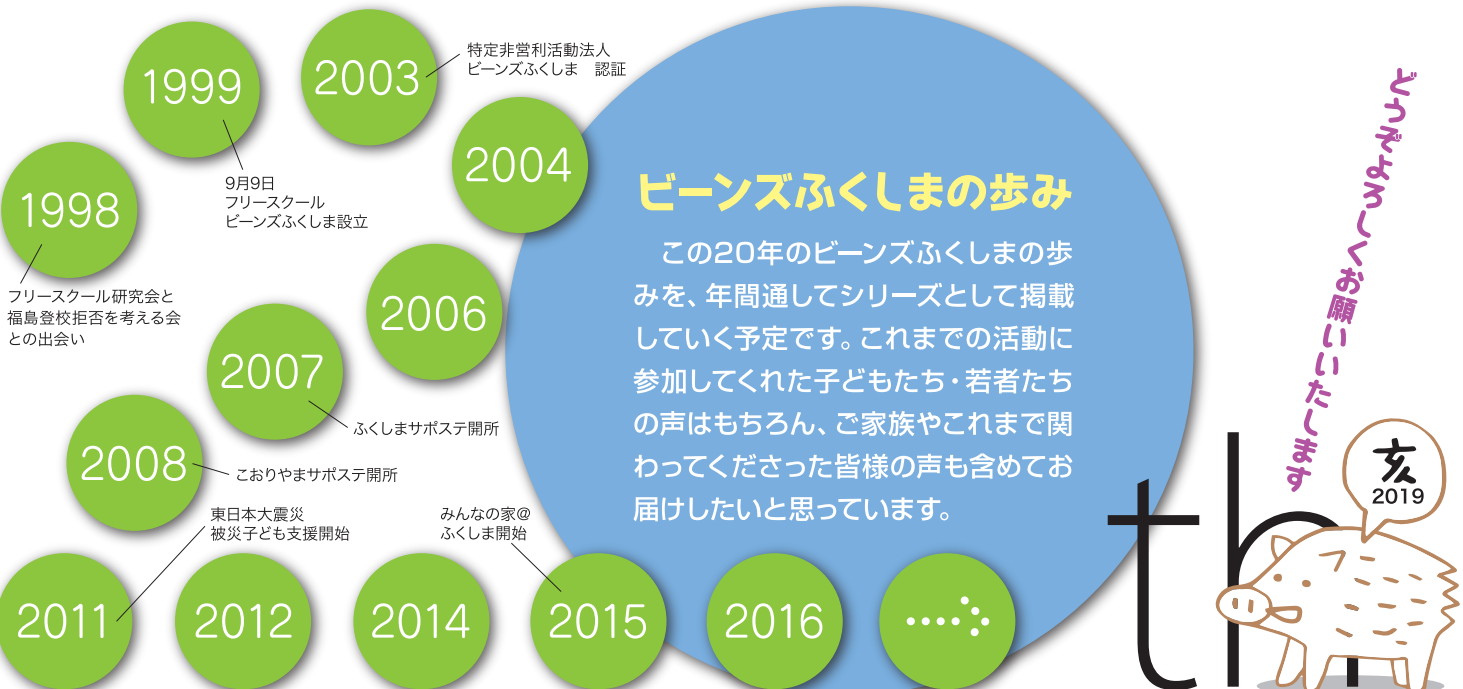
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の
子どもやひきこもりの青年などに安心で
きる居場所を提供し、1人1人に寄り添っ
て、ゆるやかな社会参加を促し、その自
立を支援する、若者支援の理念に基づい
て事業を展開しています。

詳細が決まりしだいお知らせしま
すので、楽しみにお待ちください。

20回目の “明けましておめでとうございます”

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。
本年もビーンズふくしま一同、子どもたち若者たちと共に歩んでまいります。
皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。——— 理事長 若月ちよ



ビーンズふくしまが取り組む子育て支援

「みんなの家@ふくしま」

東日本大震災後の避難親子の孤立、子育てや放射線を巡る親の不安…そうした背景のもと、震災後の子育て支援の取り組みとして常設の子育て拠点となったのが「みんなの家@ふくしま」事業です。

県外に避難した福島の子育て支援団体や子育て支援センターに支えられてきました。そうした団体との交流や福島に戻ってきた親子が経験した先駆的なものを取り入れて、親同士でゆっくりと話せる場の提供や、親子で楽しめるイベントの開催、多世代・地域の方との関わりの場を創ってきました。地域の中の民家を活用したこの場に、多くの方が集い、新たな交流の輪も生まれています。

このような取り組みからの提案が認められ、平成29年度より、福島市で22カ所目の「子育て支援センター」として、制度に則った形で事業が継続できることとなりました。

市の事業となって2年目。ビーンズふくしまが培ってきたNPOならではの視点や、親支援・相談支援の手法、居場所のノウハウも織り交ぜ、子育て支援のネットワークを活かした特色のある「子育て支援センター」となっています。

開設は、月曜日～土曜日の10時～15時。基本的に事前の申し込み無く、いつでも利用できる場は、子育て中のお母さんにとっても、安心して利用しやすい居場所になっています。

「子育て支援センター」とは

国の子育て支援施策に位置付けられる地域子育て支援拠点事業の1つです。

子育てが孤立化する中で、地域の

子育て支援を活性化し、子育て不安を解消し、子どもが多様な大人や子どもと関わる場を提供することで、子どもの健やかな成長をめざしています。常設の地域の子育て拠点を設け、親子が気軽に集い、安心できる雰囲気の中で交流ができる場の提供、子育てに関わる情報の収集・提供、子育てに関する相談などの支援を行います。



なぜ、ビーンズふくしまが取り組むのか

ビーンズふくしまが子ども・若者支援に取り組んできた中で、本人たちの直接支援だけではなく、親や家族も含めた支援が大切であり、支援の両輪となることを痛切に感じてきました。また多様な人との関わりや経験が子ども・若者を育てていくことも、これまでの取り組みから見えています。

しかしながら、「生きにくさを抱える子ども・若者たち」を見ていると、「子育ての孤立化」、「多様な人との関わりや経験の不足」など、子育てを巡る地域の環境が低下している状況が見えてきました。

大人が子どもの育ちについて学び、



グレートフルアンサンブル
日系アメリカ人と日本人の音楽を通じた
友好の架け橋の場でした



飯電でGO!
今年は飯坂方面へ
遠足に行きました



はじめましてさんの日
初めてみんなの家を利用される方のための日



交通安全講座
親子で交通ルールを学びました



育休ままday
市の保育士さんによる保育園のあれこれ話

大人自身も人と繋がり、共に関わっていく場をつくる必要があり、そのことによって子どもたちが安心して育つことができる地域になる…このような取り組みの実践の場として子育て支援センター「みんなの家@ふくしま」の取り組みを進めていくことになったのです。

多世代交流の場として

みんなの家@ふくしまは、福島市北西部の笹谷団地の中にあります。笹谷団地は230世帯を超える大きな団地(戸建て)ですが、高齢化も進んでいます。そうした中、子どもの声が聞こえることが団地の皆さんの活性化になると、温かく迎え入れていただき、イベントにご協力いただくと共に、団地の皆様にも利用いただいています。

の皆さんとの交流の場。「団子さし」や「ちまきづくり」など福島の伝統行事と一緒に実施することも。

●らんらんタイム／楽器を使い、音楽に合わせて体を動かして、リトミックの要素を取り入れた親子でのリズム遊び。

●各種講座／子育てに役立つ講座の開催や、親同士が学び合い、育ち合うことを目的としてノーバディズ・パーフェクト(完璧な親はいない)プログラムなどを実施。

●小中高生ままday(オールままだay)／学童から青年期までの子どもを持つ親向けに子どもの育ちの学びの日。



レジン作り
ユースプレイスの若者に
レジン作りを
教えてもらいました

利用者の状況は

昨年度の利用者・来館者の総数は、4,982名でした。今年度も、4～9月まで半期の総数は、2,558名で、昨年度の利用状況を上回っています。

子育ての孤立化を防ぎ、地域ぐるみで子どもの育ちを支えていく、そんな福島を創っていきたいと思います。皆様、お誘い合わせの上、足を運んでください。

復興交流拠点 みんなの家@セカンド 新たな繋がりとおふれあいをめざして

「子育て支援」と「避難者支援・復興支援」という「みんなの家@ふくしま事業」の中で、特に後者の役割を担うのが「復興交流拠点みんなの家セカンド」です。

県外に避難し戻って来られた方、浜通りから県北管内に避難してきている方、避難はできなかったけれどその苦しかった思いを受けとめてくれる場を探していた方などが、グループトーク、手仕事や文化活動などを通して新たな繋がりをつくり、おふれあいが生まれる交流拠点として、子育て支援センターと同じ笹谷団地内にもう1つの家をお借りして、様々な取り組みをしています。

●「ママカフェmini」「ママトーク

@ふくしま、こおりやま、だて」／グループトークや勉強会 ●「ママクラス交流会」「大人の部活」／季節にちなんだ行事やイベント、手仕事や文化活動などを通しての交流

●情報誌「F-ママ」発行／福島で子育てをしている母親たちによる情報発信 ●若者と親子と避難してきた方との農作業

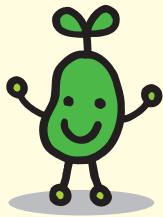


キャンドル・ジュンさんを迎えての
ママトーク

●詳細は、ホームページをご覧ください。
(子育て支援センターみんなの家@ふくしま、みんなの家セカンド共通)

<http://minnanoiie.beans-fukushima.or.jp/>

貧困寄付 キャンペーンの ご報告



2018年10月9日～11月30日にかけて、寄付キャンペーン「子どもの貧困の連鎖を断ち切るために」を実施し、40,000円のご寄付をいただきました。本キャンペーンを通して、ご寄付だけでなくSNSでの『いいね!』や直接応援のメッセージを下さり大変励みになりました。ご協力をいただいた皆様には心より御礼申し上げます。

ご寄付は、家庭訪問による個別支援や講座・体験活動の他、他者との交流を通じて学びや気づきを得られる集合型活動(クリスマス会等)にも活用させていただきます。こうした取り組みの1つ1つが、貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちの今と未来に希望が持てる社会の実現につながっています。今後とも皆様のあたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

アンケートのお願い

ビーンズ通信をいつもお読みいただき、ありがとうございます。今回の通信で91号となり、2000年に初号を発行してから19年目を迎えております。ビーンズふくしまの活動を皆さまに知っていただきたく、お届けしてまいりましたが、このたび、「より伝わりやすい通信を創りたい」という思いから、皆さまからのご意見・ご感想をいただきたいと思っております。お手数をおかけしますが、以下のいずれかの方法にてご協力をお願い申し上げます。

●**FAX**→同封のアンケート用紙にご記入の上、送信してください。

●**メール**→質問事項へのお答えを本文にお書きになり送信してください。

info@beans-fukushima.or.jp



平成30年度 地域課題解決型募金のお願い

貧困家庭の 子ども・若者の 生きる力を育む 孤立解消を目指して

私たちが関わっている貧困家庭の子ども・若者は、貧困、劣悪な家庭環境、虐待、いじめ、不登校などが原因となり「生きる力」—学ぶ意欲、助けを求める力、困難に立ち向かい自立する力—が奪われ孤立状態にあります。

安心して自分らしく社会に関わりながら生きる、そのためには安心できる場所で、地域の方々との交流、気付きや学びを通じて「生きる力」を育むことが必要です。今年も安心できる「居場所」を地域の中に作り、地域の皆様と宿泊学習や料理・工作教室などの活動を実施したいと思っております。

私たちは、赤い羽根共同募金「地域課題解決型募金」の仕組みを活用して、孤立状態にある子ども・若者の支援を続けるための寄付を募ります。寄付受付期間は平成31年1月1日～3月31日です。

なお、この寄付は、個人の場合、所得控除もしくは税額控除の対象となりますので、ぜひ私たちの活動を応援ください。よろしくお願いいたします。



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス → <http://www.beans-fukushima.or.jp/>